

パキスタン豪雨 支援活動を報告

AMDA調整員

国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）は11日、記録的豪雨で深刻な浸水被害が出ているパキスタン南部を拠点に被災者支援に当たった調整員による活動報告会を同市内で開いた。

調整員は9月24～28日、農村が広がる同国シンド州などで食糧配給やニーズ調査を行った池田敬さん（47）＝同市。6月以降続いた豪雨で集落が水に漬かった様子を動画で伝え「水道などのライフラインが止まる中、気温が40度を超え、自宅を流された貧困層の人たちが道端で

泥水を飲んで暮らしていた。衛生環境が悪く、マラリアや腸チフスの患者も多い」と述べた。

一部地域では今なお水が引いていないとして、現地の協力団体を

通じて水のろ過装置を近く届けるといふ。池田さんは「地球温暖化に伴う気候変動が豪雨の原因とされる。今も苦しんでいる人たちに思いをはせるとともに、自分ごとと捉えて

日頃から環境に優しい行動を心がけてほしい」と呼びかけた。

（安部晃将）



パキスタンの被災地の動画を流して支援活動を報告する池田さん